

山の百花

遠足会員 R・S

【81】ジキタリス

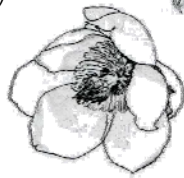
ゴマノハグサ科。原産国はヨーロッパ西アジアで、日本では山の花と言うよりガーデニングで馴染みがあるかもしれない。全体にジギトキシンと言う毒があり、コンフリー（これも食用ではない）の葉と間違つて食べた人が中毒死した事もある。大きいものだと 1.5 m 位になり、六月末にピンク白黄紅紫等色とりどりの釣り鐘状の花が縦に連なつて咲き、毒草ながら「妖精の帽子」などとメルヘンチックな別名がついている。

確かに遠目に見ると童話にでてくる妖精の帽子によく似ているが花の内側を覗くと、外側の愛らしい形とは大違いで、汚れたシミのようなマダラ模様がいくつもありいかにも毒々しい感じがする。

三重と奈良の県境の池木屋山（いけごややま）1395 m 山頂付近には群生があるらしく、以前運良く見つけた知人が「なんかすごいねん！そこだけ違う世界やねん」と興奮気味に言っていた。深い森の住人が悪戯好きな妖精なのかそれとも怖い妖女な

のか自分の目で見てみたい。

池木屋山はアクセスが難しく登山コースは途中危険な滝をいくつか越え往復に 8 時間近くかかる。それと一番厄介なのは、ジキタリスの最盛期は蛙の最盛期になる。足元からウジャウジャ木の枝からボトボト：…。どうやらジキタリスに逢いに行くには結構覚悟がいるようだ。池木屋山は他に、尾根コースも有るらしい。



Stamp

【82】オオヤマレンゲ

モクレン科の落葉低木で、九州〜関東以西に分布し同属にコブシやホオノキなどがあり 5〜7 月に白い花をつける。前述のジキタリスは自己主張が強く異国の日本で逞しく野生化しているのとは対照的に、オオヤマレンゲは純白の花が枝先に俯き加減につき、僅かに芳香が漂い楚々として何とも奥ゆかしい。さながら「私達」日本女性の

ようだ(！)。

04 年に世界遺産に指定された奈良県大峰山系の弥仙や八経方岳周辺には、30 年前なら登山道付近でいくらでも咲いていたらしいが、今はフェンスで保護されている。いや保護と言うより人間が籠の中に入って観賞するようなもので、ここまでできてののかとこの花を守れないところまできているのかと少し焦りにも似た気持ちになる。

激減の原因は鹿の食害と、近年の酸性雨等にあるらしい。温暖化現象の解決は難しいがシカの方は簡単、とにかく捕獲してモミジ鍋や行者さんの引敷（ひっしき）座る時に使う毛皮のお尻当てみたいな物)にでもしたらええんちゃうん？。などと物騒な事を言つても、そんな簡単な問題ではないそう。

管轄の役所に聞いてみたら「私達も何とかしようと計画を立てる話は持ち上がっており、諸方の意見をお聞きして云々……」役所の人も色々大変なんだろうなあ、ご苦労サマです。だけどここのままじゃ「天女花」(てんによばな)とうたわれる大峰の名花は無くなってしまうだろう。